

(様式)

阿南市立福井中学校園：「学力・学習状況」改善プラン

1 学力向上推進員 職・氏名 (教諭 中田 みさ子)

2 学力向上検討委員会構成

職名	氏名
校長 事務室長 研修主任	生 杉 孝 晴 棚 橋 幸 長 谷 川 静 久 米 宏 美 中 田 みさ子

3 現状・課題

学 力	平成22年度の「全国学力・学習状況調査」や「徳島県学力ステップアップテスト」における本校の平均正答率は、国語・数学ともに県の平均正答率を上回っており、大きな課題は見られない。 しかし、生徒一人ひとりを見てみると、各学年に、基礎学力が十分ではなくサポートを必要とする生徒が存在する。また、全体的に、自分の考えや思いを表現すること（書くこと・話すこと）に対する姿勢には、やや消極的な面が見られる。
学 習 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度はまじめであり、与えられた課題には真剣に取り組むが、自主性や主体性に欠ける面がある。 今年度当初の学習に関するアンケート結果によると、「学習している内容について、授業中は理解できるが、テストになるとわからなくなる」という生徒が全体の44%を占めている。そして、家庭学習の時間については、83%の生徒が「2時間以内」と回答しており、家庭学習の時間が十分ではない生徒や家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多いという状況が見られる。 昨年度実施した読書冊数調査では、1か月の読書冊数は一人あたり1.9冊であった。しかし、わずか1冊という少ない学年もあった。また、1年間に4冊という生徒もおり、読んでいる生徒と読まない生徒の差が大きい。

4 目標等

(1) 学力について

重点目標：わかる授業の実践。基礎的・基本的な知識・技能の習得。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
わかる授業、基礎学力をつけさせる授業の実施をめざす。	年度末の学校評価アンケートで、7割以上の生徒が「授業はわかりやすい」と答えられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> わかる授業を展開するために、指導方法の向上に向けての研究を進める。 話し合い活動や、意見を発表する機会を増やすような授業の進め方を工夫する。 わからないことを「わからない」と言える学級や気軽に質問できるような雰囲気を作る。 	4・3・2・1	
読書の生活化、習慣化を図る。	一人当たりの年間読書冊数目標を設定する。 ・20冊以上 50%以上 ・30冊以上 20%以上	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書タイムを活用し、全員で読書に親しむ雰囲気作りに努める。 文化委員会が中心となって、新刊図書を紹介し、読書意欲を高める。 本が身近なものとなるよう、学級文庫を充実させる。 読書ファイルに記録させ、読書の足跡を残すようにする。 	4・3・2・1	

(2) 学習状況について

重点目標：生活習慣を改善し、家庭学習の充実を図る。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
家庭学習の習慣化を図る。	自主勉強ノート提出率を100%にする。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と連携をとり、家庭学習の意欲づけを図る。 「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の定着の一助とする。 適切な宿題を出し、出された宿題に目を通し、指導をする。 	4・3・2・1	

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入する。下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付ける。